

研究 成 果 報 告 書

2021 年 7 月 30 日

1. 所属・職・氏名 等

国際教育学科・講師・木下慎

2. 研究課題（テーマ）名

「日本の『自己』像の形成と変遷」

3. 研究期間

2019 年度-2020 年度（2 年間）

4. 利用した研究費の種類及び金額

重点領域研究費交付金（大学の授業改善に関する研究領域）・230 万円

5. 研究の概要

本研究では、研究代表者の木下慎と、共同研究者のヨハン・ノルドストロム、山辺恵理子が、「日本の『自己』像の形成と変遷」に関連したテーマを設定して、2019-2020 年度の 2 年間にわたり、外国人留学生を対象とした資料収集と教材開発を進めた。特に木下は西洋思想の受容と日本思想の形成過程について、ノルドストロムは日本政府による文化映画を通じた国民教育が日本の市民的アイデンティティーに及ぼした影響について、山辺は日本の伝統的物語のモチーフが自己像と他者像の形成に果たした役割について、それぞれ検討を行った。

6. 研究成果等

【2019 年度】

本研究を通じて戦前・戦後の歴史史料や英語資料を含めて収集した資料数は百点を超える。資料収集は国内の活動にとどまらず、ヨーロッパ圏における日本文化の発信拠点をなす The Japan Cultural Institute in Paris などの文化施設を訪問し、外国語資料の収集を行った。資料収集の成果は、2019 年 12 月 4 日から 2020 年 1 月 8 日にかけて都留文科大学附属図書館共同スペースで開催した企画展「The Japanese “Self-Images” in Relation to “the Others”: Revisiting the images of “Us” and “Them” in Japanese legends, modernization, and propaganda」（邦題「日本の『自己像』と『他者』」）に結実した。この企画展では、英語資料を中心に当プロジェクトで収集した活字媒体と映像資料の約 60 点を展示し、留学生だけでなく本学の学生や教員も鑑賞できるように日本語と英語の説明文章を付した。

また、2019 年 12 月 4 日には都留文科大学 2 号館 101 教室で、学内の留学生を主な対象に「弁士・伴奏付き『忠臣蔵』特別上映会および特別講演会」を開催した。日本人の伝統精神を象徴する作品として位置づけられてきた『忠臣蔵』を題材に、日本映画のなかで日本人の

ナショナル・アイデンティティがどのように描かれてきたのかを検討した。活弁士の片山一郎氏を講師に招き、特別講演会を行って頂いたあと『忠臣蔵』をはじめとして代表的な無声映画を弁士・伴奏付きで観賞した。当日の参加者は、国際教育学科の留学生だけでなく他学科の留学生、日本人学生を含め 30 名以上に及び、質疑応答の議論は活況を呈した。

本プロジェクトで収集した資料群とその分析結果は、留学生を主な対象とした授業科目「Japanese History and Culture」や「Japanese Culture Fieldwork」の教材開発に活用した。2019 年度の「Japanese History and Culture」の授業では、収集した資料をもとに以下の 4 つのテーマで授業教材を作成し、授業内で実際に使用した。授業で特集したテーマは、①「日本人の起源：考古学と神話学から見る古代の日本」、②「日本人の自己イメージ：中世の絵巻物から現代のアニメへ」、③「日本人のナショナルアイデンティティ：サクラとナショナリズム」、④「日本のカタストロフィと記憶：ヒロシマからフクシマへ」である。

また、本プロジェクトでは、交換留学プログラムの提携大学との国際的な連携も視野に入れたため、教材開発にあたって積極的な連携を図った。交換留学プログラムの提携大学の一つであるウプサラ大学の Johan Wickström 教授と共同授業を行った。上記①の教材開発と連動して、北欧神話の研究者である Wickström 氏を 2019 年 10 月 11 日 3 限の Japanese History and Culture の講師に招き、北欧神話と日本神話を比較検討する特別授業を行った。海外研究者と連携を図ることで、比較文化研究の観点が増強され、留学生にとっても日本人学生にとっても、各自の文化的ルーツにアプローチするための視座を提供することができた。

【2020 年度】

2 年目にあたる 2020 年度は、共同研究の各メンバーがそれぞれのサブテーマを設定して、前年度に引き続き、資料収集とその分析・発信に取り組んだ。コロナ禍の影響で交換留学は中止となったが、本プロジェクトの目的である留学生対象の教材開発は継続的に進められた。

2020 年度はとくに、日本の自己像の形成と変遷に関わるテーマとして日本人の政治的・宗教的なナショナル・アイデンティティに関連する資料収集に力を注いだ。なかでも、天皇、靖国神社、富士山などをナショナル・シンボルに据えた日本人の精神構造の形成と変遷は研究上の重要な焦点となった。これに関連して収集した資料は、留学生が履修予定だった授業科目「Japanese Culture Fieldwork」・「Japanese History and Culture」等で教材開発に活用した。特に 2020 年度の「Japanese History and Culture」の授業では、残念ながら留学生は参加できなかったものの、日本人学生を対象に靖国神社と皇居でのフィールドワーク（2020 年 11 月 8 日）と富士山周辺でのフィールドワーク（2020 年 11 月 22 日）を実施し、その事前・事後学習で本プロジェクトの収集資料を積極的に活用した。

加えて、2020 年度は、日本人のナショナル・アイデンティティに関わる重要なテーマとして、第二次世界大戦の敗戦によって生じた残留邦人の問題を扱った。残留邦人のテーマに深く切り込んだドキュメンタリー映画『日本人の忘れもの：フィリピンと中国の残留邦人』（小原浩靖監督、2020 年制作）の上映会を都留文科大学キャンパス内で実施した（2020 年 12 月 16 日）。当日は、国際教育学科と地域社会学科の学生の計 22 名が参加した。上記の映画を全体で視聴した後、「日本人とは何か」というテーマに関連した問いを参加者一人一人に提

案してもらい、グループごとに哲学対話を行った。上映会後に行ったアンケートでは、例えば以下のような感想が学生から寄せられた。「以前日系フィリピン人の人たちの問題についての授業を受けていたため、特に関心がある内容だった。日本人とは何か、国が決める国籍と個人が決める（そうでありたいと願う）国籍の関係性などたくさんのことを考えさせられた」。「改めて自分は何物なのか疑問に思いました。これから日本だけでなく国際的な仕事をしたいと考えるにおいて自分が誰なのか、自分のルーツはなんなのかをはっきりとしておかなければならないと思いました」。映画上映と哲学対話を通じて、日本人のアイデンティティに関わる政治的な争点について学生の理解を深めることができた。

7. 研究の実績（論文・発表 等）

(1) 資料展示会の実施

- ・ 【2019年度】企画展「The Japanese “Self-Images” in Relation to “the Others”: Revisiting the images of “Us” and “Them” in Japanese legends, modernization, and propaganda」（邦題「日本の『自己像』と『他者』」）、2019年12月4日-2020年1月8日、於・都留文科大学附属図書館共同スペース。

企画展では、本研究で収集した資料・史料を1ヶ月以上に亘って一般公開した。本学の留学生のみならず、日本人学生、教職員、一般市民の閲覧に供された。2020年度はコロナ禍の影響で交換留学が中止されたため展示会を実施できなかったが、2021年度以降、交換留学が再開された際には同様の企画を検討したい。

(2) 講演会・上映会の実施

- ・ 【2019年度】「弁士・伴奏付き『忠臣蔵』特別上映会および特別講演会」（講師・片岡一郎ほか）、2019年12月4日18:10-21:00、於・都留文科大学2号館101教室。
- ・ 【2020年度】「『日本人の忘れもの：フィリピンと中国の残留邦人』特別上映会および哲学対話」、2020年12月16日18:10-21:00、於・都留文科大学5号館5102教室。

本学学生を対象としたイベントとして、2019年度には「弁士・伴奏付き『忠臣蔵』特別上映会および特別講演会」を行い、国際教育学科の留学生、他学科の留学生、日本人学生など、30名以上の参加者を迎えた。さらに、2020年度には「『日本人の忘れもの：フィリピンと中国の残留邦人』特別上映会および哲学対話」を行い、国際教育学科と地域社会学科の学生、計22名が参加した。今後も、同様のイベントを企画し、幅広い交流と議論の場を設けていきたい。

(3) 開発教材を用いた授業の実施

- ・ 【2019年度】「Japanese History and Culture B」（2019年度留学生科目）で以下の授業を実施。（i）授業タイトル「日本人の起源：考古学と神話学から見る古代の日本」（2019年9月27日・10月4日・10月11日。10月11日は、ウプサラ大学の Johan

Wickström教授を講師に招いて「北欧神話と日本神話」というテーマで共同授業を実施)。

(ii) 「日本人の自己イメージ：中世の絵巻物から現代のアニメへ」(2019年10月25日)。(iii) 「日本人のナショナルアイデンティティ：サクラとナショナリズム」(2019年11月15日)。(iv) 「日本のカタストロフィと記憶：ヒロシマからフクシマへ」(2019年11月22日・12月13日)。

- ・ 【2020年度】「Japanese History and Culture I」(2020年度留学生科目)で以下の授業を実施。(i) 授業タイトル「日本人のナショナル・シンボル：天皇・靖国・富士山」(2020年10月25日：オンラインで実施)。(ii) 「靖国神社・皇居フィールドワーク」(2020年11月8日)。(iii) 「富士山周辺フィールドワーク」(2020年11月22日)

本研究の収集資料ならびに開発教材は、2019-2020年度の2年間にわたって「Japanese History and Culture」や「Japanese History and Culture」などの授業で活用され、国際教育学科の交換留学プログラムに参加した留学生と本学の日本人学生に提供された。これらの教材は更なる改訂を行いつつ、2021年度以降の交換留学プログラムでも積極的に活用していきたい。